

清流

題字：芳野 充

平成29年3月30日

第3号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

〈思いやり〉の具体的な行動

前号で〈思いやり〉とは「相手に不快さを与えないこと、さらには安心と喜びを与えること」だとお伝えさせていただきました。その具体的な行動をわたしが学んでいる素心学塾塾長の池田繁美先生は、「日常の心がけ」として次の二十一項目をあげています。

- 一、笑顔であいさつ
- 二、正しくやさしい言葉づかい
- 三、清潔でさわやかな身だしなみ
- 四、腰骨を立てた正しい姿勢
- 五、「はい」という明るい返事
- 六、なごやかな気持で相手に応対
- 七、人の話はていねいに聴く
- 八、身のまわりの整理整頓
- 九、約束、規則は必ず守る
- 十、ものは粗末にせず、大切に扱う
- 十一、水や電気の節約
- 十二、食事のまえは「いただきます」
- 十三、不要なもの音は立てない
- 十四、脱いだハキモノはきちんとそろえる
- 十五、グチや悪口はひかえる
- 十六、飲食は美しく、腹七分に
- 十七、ものごとの好ききらいはつつしむ
- 十八、ものごとの処理は機敏に
- 十九、ずるく、いやしい行為はつつしむ
- 二十、早起きの励行
- 二十一、一日の終わりは静かに反省

一般的には〈思いやり〉とは「相手の立場にたつこと」とも言われます。わたしも「妻の立場になって行動する」と決めたことがあります。しかし普段、家事や料理を手伝っていないわたしにとってどこからどう手をつけてよいか分からず、手をつけるも妻から言わせると「余計に仕事が増えるからやめてほしい」と言われたことがあります。このような経験からも自分が相手の立場に立ち、ものごとを考えるということはむずかしいことだと感じました。それよりも笑顔で「何か手伝えることはない？」とやさしく声をかけるほうが不快さを与えず、安心と喜びを与えられることにつながるように心がけます。

加来 寛

